

平成30年度 乳幼児教育振興特別事業  
全幼研ワクワクプロジェクト（三重支部） 報告書

「 保育の質の向上をめざして 」

提出日 平成30年12月19日

支部長名 南川 光代

- 実施日 平成30年12月2日（日）
- 時間 10時～16時
- 会場 松阪市立中川幼稚園・遊戯室
- 参加者 全幼研三重支部会員・保育関係者（計89名）
- 講師 所属・職名 お茶の水女子大学教授  
文京区立お茶の水女子大学こども園園長  
名前 宮里 暁美 先生

○内容 講演会 『子どもの「やりたい！」が発揮される環境の在り方』

講演の前に、支部理事より、1か月前に行われた“全幼研教育経営研修会岩手大会”の報告をさせていただきました。主に、3つの提案発表と汐見稔幸先生の講演について、そして岩手の先生方の震災を乗り越えての熱い思いも伝えさせていただきました。



事前に送っていただいた資料の表紙の千日紅の可憐さに魅了され、参加者にもカラー印刷で配布させていただきました。

宮里先生の一言一言に心が洗われるような思いと、気さくな人間味あふれるお話に温もりを感じながら、参加者全員お話に聞き入りました。

まず、最初はレイチェル・カーソンの『センス・オブ・ワンダー』のお話でした。「子どもの世界はいつも生き生きとして驚きと感激に満ち溢れているのに、私たち大人は直観力や目を見張る感性をにぶらせ、ある時は失ってしまう。子どもと一緒に感動を分かち合ってくれる大人が少なくとも一人、そばにいる必要がある。」その一人に自分はなれているだろうか、なりたいと強く思いました。また、「“知る”ことは“感じる”ことの半分も重要ではない、子ども時代は土壌を耕す時である」…迷っている人がいれば伝えたい、保護者にも伝えていきたいお話でした。参加者の一人は、「今日はこの本を買って帰ります」と感想を述べていました。





この日のお話のテーマである『子どもの「やりたい!」が発揮される保育環境』（自分達の実践から子どもが過ごす時間や場について考えた一冊の本）を紹介していただきました。

「唯一無二の環境ではなく、環境は変えられる。環境が変わる時、保育が変わる。保育が変わる時、子どもたちが変わっていく。」幼児期の教育が“環境による教育”であることを、沢山の写真を見せていただき、強く感じさせていただきました。「『やりたい!』が発揮されていくためには、じっと見る、触れてみる、試す、そして仲間が必要ですが、保育者の存在の大きさも感じました。倉橋先生の『こころもち』の中の一説も紹介していただき、見えないものに目を向けていく大切さを改めて教えていただきました。

また、新教育要領、及びこども園についてもお話をうかがうことができました。

## 午後 語る会

10のグループに分かれて座り、宮里先生のお茶の水こども園のDVD（『創る・織りなす保育』）を見せていただきました。その中には、小さな園舎の中での沢山の工夫と子ども達の生き生きとした姿がありました。0、1、2歳児の姿から3、4、5歳児の保育を考えていくことの大切さや変わることを歓迎するという、常に前向きな宮里先生の姿勢に学ばせていただきました。

グループ討議では、付箋を活用してエピソードを出し合う、話し合いの持ち方を伝授していただきました。各グループ、和気あいあいと話はずみ、あちこちから笑い声が聞かれました。保育者同士がつながることで、保育をする喜びを再確認できた時間でした。



〈アンケートより〉

- ★こども園の現状・課題も含めて、具体的事例をあげていただいた先生のお話から、元気が湧きました。0歳からの発達を支えるこども園が頑張っていて子どもたちの幸せのために充実した場になるようにしていきたいと思います。
- ★宮里先生の保育に対する姿勢（積極的な姿勢・柔軟な姿勢）を学ばせていただきました。
- ★語ることによって、自らの保育を振り返ることができました。

## 〇まとめ（成果と課題）

☆大切な保育の心持ちを教えていただき、大きな活力になりました。

☆以前より、支部単独の研修会を行ない、全幼研のPR及び会員のお得感も感じていただけたら、と考えてきました。今年度、このワクワクプロジェクトの企画をいただき、国公立・私立、幼・保・こども園・行政など様々な立場からの参加を得ることができました。中身の濃い講演プラス語る会も持てたことで、共有することが共感につながる職員連携のキーポイントも教えていただくことが出来ました。アンケートからも参加者皆さんに満足してもらうことができたと自負しています。

☆今後は、もっと大勢の方に参加していただけるよう、開催時期を検討していきたいと思います。